

## Case Report

# 高力価インヒビターを有する血友病患者において、組換え型 FVIIa の使用により無事成功した胃癌大手術

## Major surgery for a gastric cancer in a haemophilic with high inhibitor titre successfully performed by the use of recombinant FVIIa

A. Rocino, A. Carola, M. L. Papa, V. Parisi, F. Cremona, E. Miraglia, et al.

今回の報告では、128 BU という高いインヒビターレベルを有する 69 歳の血友病 A 患者に対して施行された大網切除と遠位食道切除を伴う胃全摘について述べる。手術は、組換え型 FVIIa 112  $\mu\text{g}/\text{kg}$  bw を投与した後に施行され、結果は成功であった。術後、92  $\mu\text{g}/\text{kg}$  を 12 時間後までは 2 時間ごとに投与し、24 時間後までは 3 時間ごと、48 時間後までは 4 時間ごとに投与した。それ以降は投与量を徐々に減らし、術後 28 日目に中止した。治療終了までに、トータルで 708 mg の組換え型 FVIIa 投与を要した。こ

の投与法により正常な止血効果が得られることを確認した。また、過度の術後出血や創傷血腫の兆候はみられなかった。治療期間中、副作用や全身性の凝固活性化は全く認められなかった。この大手術の臨床経過から判断して、組換え型 FVIIa は非常に効果的かつ安全であると思われる。ブタ第 VIII 因子に対して交差反応性を示す高力価インヒビターを有する患者に手術を行う際には、第一選択として組換え型 FVIIa を用いるべきであろう。

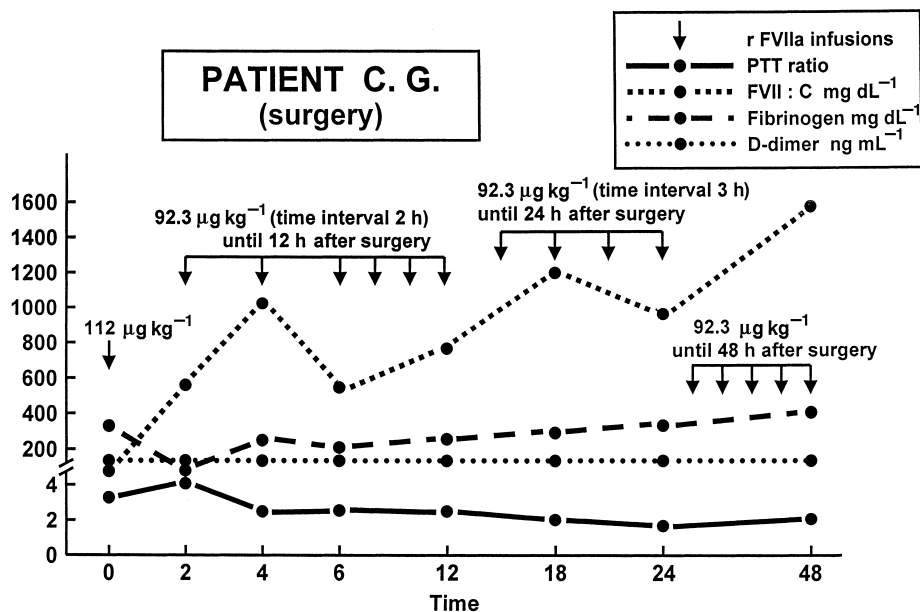


Fig. 1. Factor VII coagulant activity (FVII:C), activated partial thromboplastin (aPTT) ratio, fibrinogen and D-dimer levels during 2 days of treatment with recombinant FVIIa (NovoSeven).